

地域ワイド

幡多高校生ゼミ

朝鮮人労働者の故郷訪問

昭和20年に死亡の朴さん

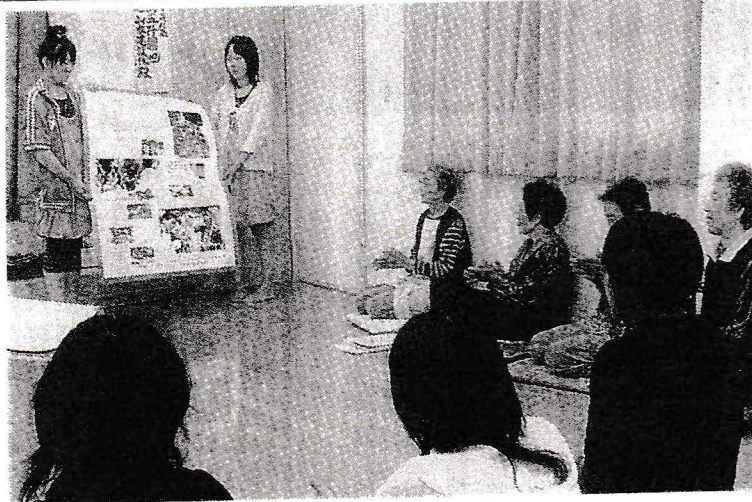
大月町柏島で報告会

「日本人の心 韓国へ届けた」

【宿毛】平和や人権に関する地域史を掘り起こし、日韓交流を続けている「幡多高校生ゼミナール」(滝本未来会長、十二人)がこのほど、幡多郡大月町柏島で第二次大戦末期に事故死した朴二東さんの故郷・韓国の莞島(ワンド)を訪ねた報告会を開いた。

朴さんは昭和二十年に柏島の軍道工事中の事故で死亡し、地元住民が供養を続けている。幡多ゼミは平成十七年、日韓合

同で柏島に供養の自然石モニュメントを製作。韓国南部の莞島の遺族とも



朴さんの故郷を訪ねた様子を報告する幡多ゼミのメンバー(大月町柏島)

連絡が取れ、墓参りが実現している。

幡多ゼミはさらに交流を深めようと昨夏、莞島を訪問。柏島で朴さんの思い出を聞き取り調査し

たビデオテープを娘に手渡し、モニュメントの石を韓国の墓前に供えた。報告会には朴さんについて詳しい八十代の住民五人が参加。高校生は「ずしりとした石の重さとともに、日本人の心を届けることができた気がした」などと報告。その上で「朝鮮人労働者の墓を地域の方と一緒に墓地に建て、ずっと供養しているのは異例」と強調した。

朴さんが生前、「柏島の風景に似ている」と話していた莞島の写真を見せると、住民らは「本当に柏島に似ている」。その後、軍用道路工事に女性も従事させられた当時の様子を、高校生に語り継いだ。(早崎康之)